

# 野の仏さまはおっしゃった

2023.5.22(月) NO19

## 役行者さんと交野奥駆けの道を(前編)

山や川や滝を、そのまま修行の場として、山の自然と人間の行動との一体化をはかり、身を清め、感謝の心を育てるために、対象者を15~16歳(中学卒業生)とする。

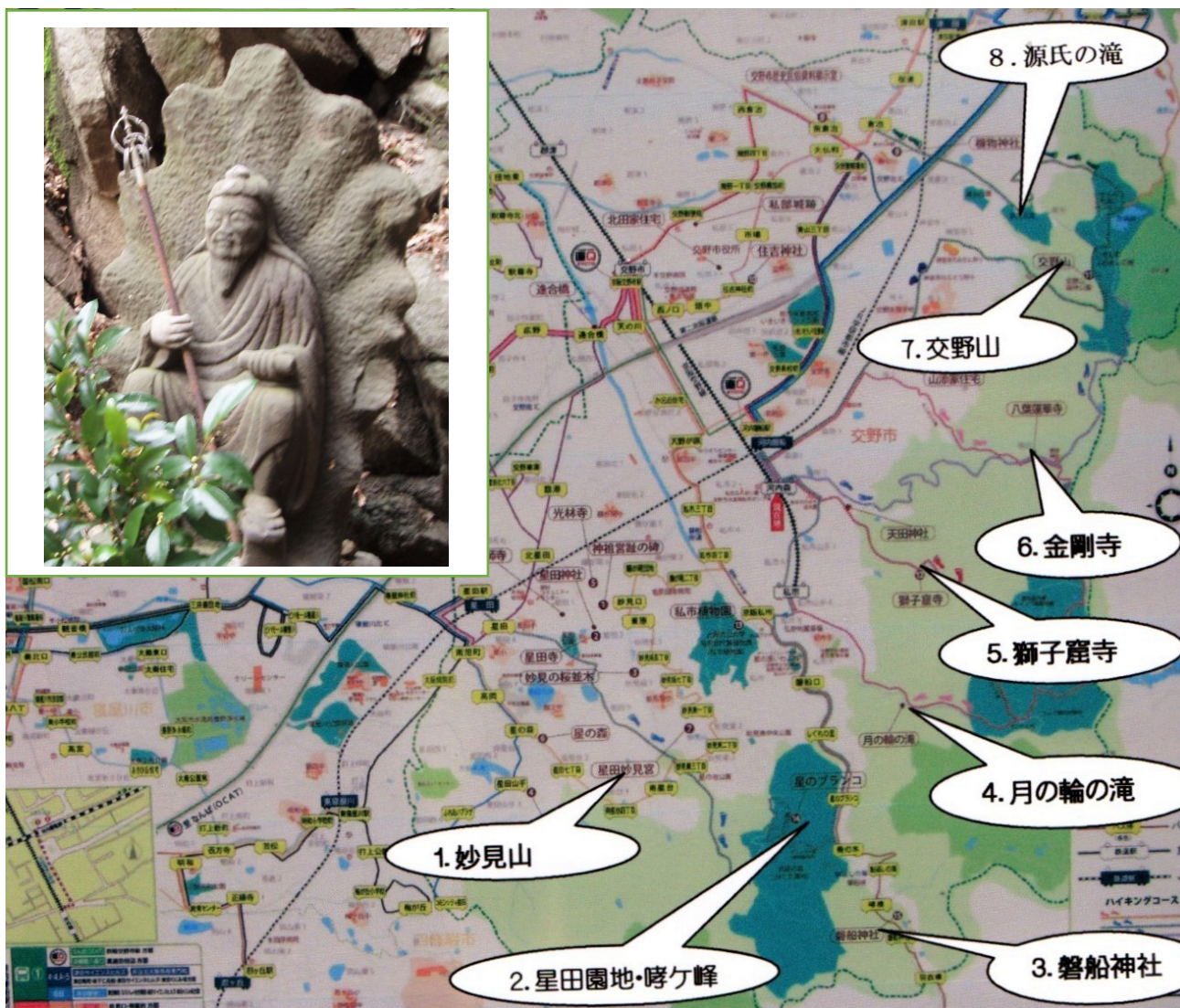
山の中に足を踏み込めば、静寂、幽邃の境が待っています。山頂に登りつけば遙か彼方まで遠望できますし、夜であれば満天の星が身近に感じられ、平地で見るかすんだ星とはまったくちがった清澄な星が見ることができます。それでは1泊2日の抖擻(とそう)に出発だ!

抖擻(とそう)とは・・・心身を鍛えて、煩惱を去り、清浄な心になることです。

行者は山林の閑静な場所を求めて、心身を清浄にして煩惱を断じて修行を行うことです。

【コース】妙見宮(心意気宣誓) ⇨ 哮ヶ峰(覗き) ⇨ 磐船(胎内くぐり) ⇨ 磐船峡(鮎返し滝・雨ごい・梅の木)

⇨ 上鳥見路(168号) ⇨ お旅所 ⇨ 月輪の滝 ⇨ 獅子窟寺(泊) 【2日目】獅子窟寺 ⇨ 傍示の里 ⇨ 竜王山 ⇨ 野外活動センター ⇨ 旗振山 ⇨ 交野山 ⇨ 源氏の滝(水行)





### ① 妙見山(小松神社)



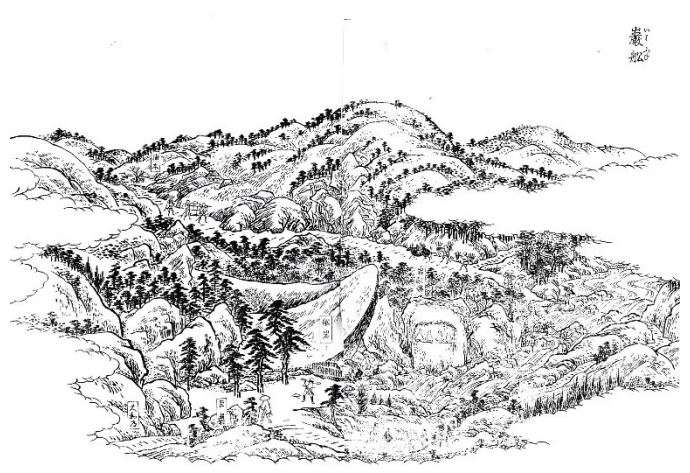
「河内名所図会」に妙見神祠 妙見山にあり。神体巨石三箇・鼎(かなえ)の如く峙(そばだ)ちて、丘の如。前に石の鳥居拝殿、玉垣、石段等あり、上人織姫石とも妙見石とも呼ぶ。此神祠旧名小松明神(灌頂録)にみえたり、そもそも妙見尊は神道家には天御中主尊と祠じ、陰陽家には北辰星といい、日蓮宗徒には妙見菩薩と仰いで、近年大いに尊信するとある。

### ② 哮ヶ峰(▲186m)

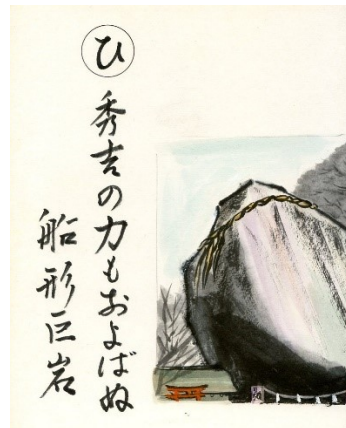


ここは大昔、饒速日尊が磐樟船に乗って哮ヶ峰に天降ったという神話がある。饒速日の尊が天下りた場所について「先代旧事本紀」はつぎのように記す。饒速日の尊は、天神のご命令で、天の磐船に乗り、河内の国の河上の哮ヶ峰に天下った。この磐樟船が磐船神社の舟形の岩であるといわれている。さらに、大倭の国の鳥見の白庭山に遷り坐す。いわゆる天磐船に乗りて大虚空を翔り行き、是の郷を巡りみて天下り坐す。いわゆる虚空見日本国(そらみつやまとのくに)とはこれか。

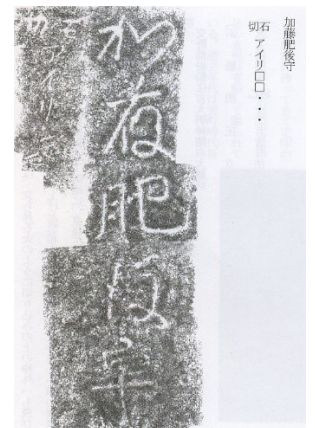
### ③ 磐船神社



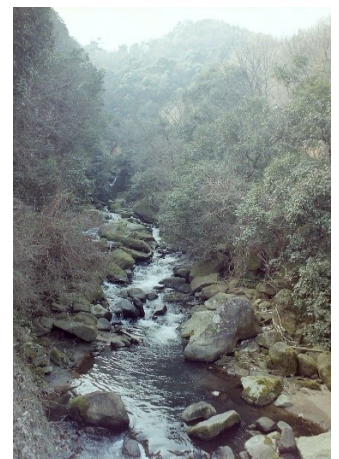
貝原益軒は、元禄二年(1689)に京都から南遊し、南遊紀行をあらわす。そのなかで、つぎのように記す。「磐船の下を天の川流水通る、奇境なり、凡大石は、何れの地にも多けれどかくの如く大石の多く一所に集まる所いまだ見ず」と書かれている。上部の大船のような舳先は南に向いていて、横 18m、高さ 12mの巨石である。大坂築城の時、加藤肥後守清正が持ち出そうとした伝説の石である。



郷土史かるた



加藤肥後守の刻印



府規則指定(昭和 16 年 12 月 27 日)





郷土史かるた



寶頭盧さん



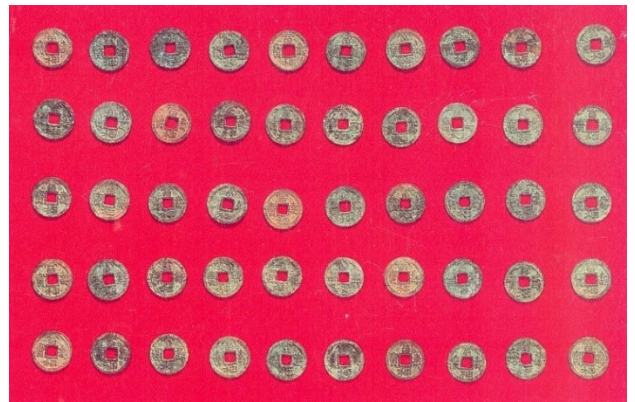
埴仏

金剛の滝(月輪の滝)は地名から獅子窟寺の寺域であることがわかる。昭和 45 年「滝が広」から埴仏と蔵骨器の中から富寿神宝 50 枚が出土した。



梅の枝供えて 八幡の放生会

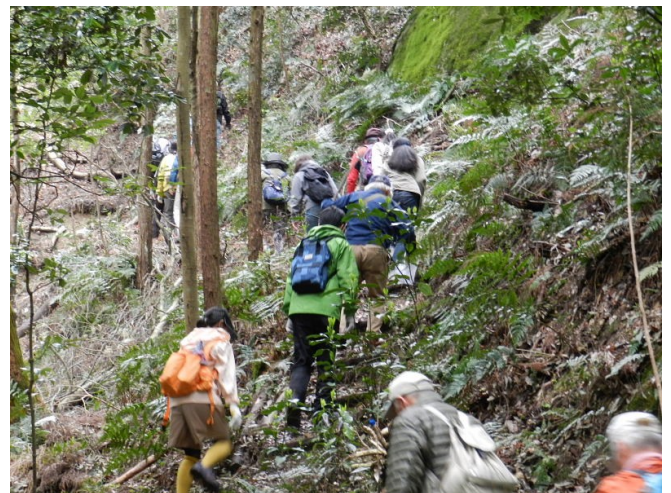
上鳥見路を磐船神社の御旅所→月輪の滝へ



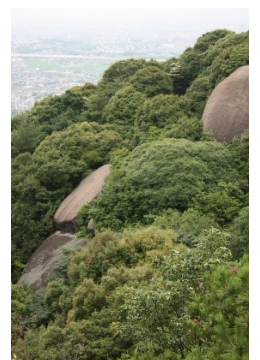
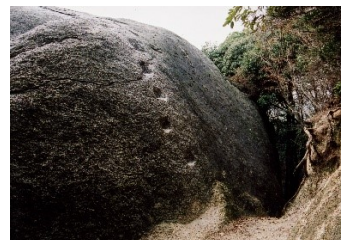
富寿神宝



④ 交野八景の一つ「尺治の翠影」



金剛の滝→急峻な道を獅子窟寺へ (hp歴史散歩)





## ⑤ 八畳岩と徳雲岩を越えて獅子窟寺



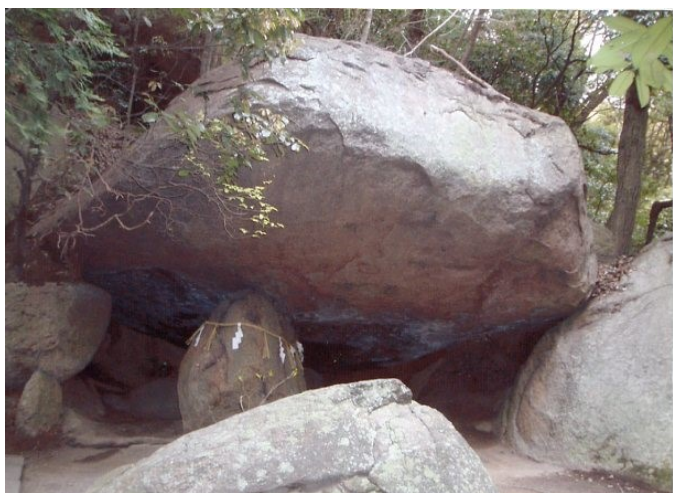
### 北峯宿

青谷寺 中山寺 信貴山 往生院 下津村 髪切 生馬  
鬼取寺 田原 石船 師子石屋 金剛寺 甲尾 高峯  
波多寺 田寺 八幡の十七霊所である。

**第十一は師子石屋** 今は獅子窟寺という。

交野の里を一望できる尾根上にこれまた巨岩重畳する霊所がある。

突き出た岩根は牙をむく獅子吼の状を形どり、まさしくそこは師子の石屋。



当時の縁起にいう。役行者金剛山に居するとき、この山

頭に五雲たなびき並びなき霊所と望まれ、錫を飛ばしてここに至り、窟中に宴坐す。

たちまち浄瑠璃世界のひろがりを見、薬師如来の浄土という。

その後僧正行基ここを梵刹としたと伝える。

ところでこの寺の山号を普見山と称し岩窟を金剛般若窟と称している。



宝積経には文殊菩薩の霊場と称した方が理にかなうようでもあり、行基菩薩開創の伝承もどうやらその辺から出てきた説話のようにみうけられる。さらに同寺の縁起はいう。天長年中弘法大師この山に至って仏眼明妃の法を修すと。時に七曜降下し、天の川の左右に散在すと。文殊師利は諸仏の母なるが故に仏眼仏母に通じ、仏眼尊、八字文殊ともに七曜九曜二十八宿を司る。

獅子窟の周辺奇岩多く、行者の霊所にふさわしい雰囲気を持ち、点在する巨石怪石は次の霊所へと人々を導いてゆく。

**懺悔! 懺悔! 六根清浄!**

**懺悔! 懺悔! 六根清浄!**

獅子窟寺に到着!

休憩後は境内散策・夜は八丁見どころを体験  
歴史の勉強会を終え就寝、おやすみなさい。

次号(後編)獅子窟寺⇄源氏の滝

=了=